

第23回 風に関するシンポジウム講演募集

期 日：1976年12月14日（火）

会 場：気象庁講堂（千代田区大手町 1-3-4）

共催学会：地震学会・土木学会・日本海洋学会・日本気象学会（幹事学会）・日本建築学会・日本航空宇宙学会・日本地理学会・日本農業気象学会・日本林学会

講演申込方法：題目、講演者氏名（連名の場合は講演者

に○印）、勤務先（電話）、100字程度の要旨を記入

講演申込先：〒165 東京都中野区野方1の35気象研究所
中野分室 相馬 清二（日本気象学会、風に関するシンポジウム係）電話 03-386-2743

講演申込締切日：1976年9月20日（必着）

講演時間：1講演15分程度

1976年度「地球化学研究協会三宅賞」受賞候補者の推薦依頼

地球化学研究協会より当学会宛表記候補者の推薦を下記内容で依頼して来ましたので、当学会として推薦したいと思います。候補者の推薦を募ります。

日本気象学会理事長

記

1. 本賞は地球化学の研究に顕著な業績をおさめた科学者に贈呈する。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞牌および賞金（30万

円）をそえる。

3. 1年1件とする。

4. 受賞候補者の略歴・推薦理由（800字程度）・主な業績・文献リスト記入のこと

（所定用紙、下記連絡先にあり）。

日本気象学会の締切：昭和51年8月20日

連絡先：奥田 稔（〒166 東京都杉並区高円寺北 4-35-8
気象研究所台風研究部）Tel 03-337-1111まで

昭和51年度岡田賞受賞者きまる

本年度の岡田賞（岡田武松先生記念）は、下記の日本気象学会員が受賞した旨、日本気象協会岡田記念事業部から通知があった。

受賞者 木村 耕三（前気象庁観測部長）

功績：地域気象観測のシステム化に貢献した。

理由：木村耕三氏は、昭和36年にこのシステムの構想を打ち出し、昭和46年5月公衆電気通信法の一部改正により公衆電話回線にデータ通信が開放されたのを契機として、このシステムの実現を図ったが、この実用化については、氏の秀れた創意と使命感にあふれた熱意によることが多大であった。

受賞者 新田 尚（気象庁電子計算機室）

功績：数値予報の発展に貢献した。

理由：近時、数値予報の成果は、気象庁の予報業務に主導的役割を果しているばかりでなく、部内外の研究調査に活用されている。

これは、プリミティブモデルが実用化されることによっていちじるしく促進されたものである。この仕事の達成は、気象庁電子計算機室や、気象研究所を中心とした多くの人々によって可能となったものであるが、新田 尚氏の果した中心的役割は特に顕著であると認められる。

1976年7月